

ペットライフ

mail:bunka1@makitanippon.co.jp



4



かんたアニマル
ホスピタル院長

(砺波市豊町)

神田 俊克

「暖冬の翌年は虫が多い」という話は、農業をされている方にはよく知られていることだと思います。その法則はノミやダニにも当てはまるようで、今年も例年になく寄生虫による皮膚のトラブルに悩む患者さんが多いように感じられます。

皮膚に問題を起こす寄生虫の中でも、特に重い皮膚炎をもたらす「疥癬」と呼ばれる目に見えないサイズのダニがいます。症状の重さに加え、伝染力も強く、まれにヒトにも一過性の皮膚炎をもたらす、嫌らしい寄生

寄生虫による 皮膚トラブル

虫です。

ではこのダニ、どこからやってくるのでしょうか。主として犬疥癬症は「センコウヒゼンタニ」、猫疥癬症は「ショウセンコウヒゼンタニ」が原因となるとされています。

イヌセンコウヒゼンタニは耳の縁、かかと、肘の外側、足の甲など、毛の薄い部分の皮膚を

好んで寄生します。皮膚に深いトンネルを掘り、その中でずっと生活しますので、動物病院の検査で寄生が確認される確率は20%以下と言われています。

伝染力強く重症化

以前は犬の体から離れると、2日と生きられないと言われていました。しかし、雌のダニは特に生命力が強く、条件を整えれば4〜20日間外界で生存でき、その

感染ルートは感染した犬や猫との接触が中心ですが、タヌキなどの野生動物がダニを持ち込んでくることもあります。県内では、冬季に食べ物や暖を求めた野生動物が、納屋や犬小屋に入り込んでくることはそれほど珍しいことではありませんから、注意が必要ですね。

間違って他の動物への感染力を持つことが近年確認されました。

ショウセンコウヒゼンタニは、センコウヒゼンタニよりも体表に近いところで生活します。犬とは比較にならないほど大量に寄生する傾向があり、病院で検査した際に発見されやすい特徴があります。

ば、何か別の重い病気を同時に患っていない限り1〜2カ月で完治します。

ただし、犬においては、ダニが見つからないことの方が多いのは先述の通りです。獣医師は、経験に基づいて治療し、その治療に対する反応をもって、診断が正しかったか判断することになりますので、飼い主の皆さん

との協力は欠かせません。

治療前と比較して、かゆみは減ったのか、肌のかさつきが改善したのか、毛が生えそろってきたのか。改善が見られないなら、ハッキリ申し出て下さい。それが、動物たちの悩ましいかゆみを解消してあげるための大事なヒントになるのですから。